



# 川島地区 社協だより

第20号  
発行日：令和4年3月  
川島地区社会福祉協議会  
地区社協だより編集委員

社協の各事業には、  
社協会費が使われています

## 古希の人に記念品



「古希」とは…中国唐の詩人・杜甫の詩の一節「人生七十古来稀なり」の言葉に由来する長寿の祝いの一つです。本会では毎年、対象者のみなさんに集まっていたり音楽、芸などを楽しんでいただく古希の集いを実施してきました。しかし、コロナ感染防止の関係で今年も昨年と同様お祝い品を贈る形で行いました。対象者の中には「昨年は記念

品をいただいたそうだが、今年はどうやって祝ってもらえるのかな。」と心待ちにしている人や「久しぶりに同年の仲間と会えると良かったけれど、今の社会状況では仕方がないね。」と残念がる人、「古希と言っても昔とは違って、まだ元気で働く年齢だよね。」社協から祝ってもらえるの？社協って何なのかよく知らないけど。」などの感想を述べていました。

◆各地区で自治会長さん等から対象者に記念品が渡されました。



対象者は、本会役員である各地区自治会長さん(または班長さん)から記念品の傘を受取り、長寿の喜びをしっかりと噛みしめていました。今年の対象者は男性58人、女性85人、合わせて143人です。

## 古希はまだ働く年齢 再会でできず残念の声も

## お元気ですか 配食サービスを実施

11月18日、一人暮らし高齢者に対する「配食サービス」を行い、弁当を届けるとともに安否確認を行いました。

10時半に川島会館へ集合した役員は打ち合わせ後、自分の担当エリア分の弁当を受取り、対象者宅へ向かいました。役員が「お元気ですか？」と声をかけると、高齢者は「ありがと、いつも世話をかけますね。」とお礼を述べて弁当を受けとっていました。

## 本会の役員 表彰を受ける

11月10日、市民文化会館で行われた市社会福祉大会の席上、川島地区から次の方が表彰されました。

- 地域福祉特別功労
  - ・尾関克明さん
- 地域福祉功労
  - ・福手弘子さん
  - ・中野正勝さん
  - ・木村徹之さん
- 団体表彰
  - ・松倉中近隣ケアグループ



◆弁当を受けとる高齢者

弁当は、コロナ感染防止のため今年も業者から取り寄せました。弁当配付を希望された対象者は、77人。

## 後書き

「川島大橋が傾いている…」まさか？昨年の5月、通行人が見つけた川島大橋傾斜の件は、県知事、市長さんらの陳情で国の代行業業として架け替えが認められ、現在河川改修が行われています。▼その川島大橋のもとに三斗山島跡の碑があります。そこで、よく草刈をしている人を見ます。「奉仕活動お疲れ様ですね。」と声をかけると、その人はこう述べられました。「私がこの近くに引越してきてから約40年、洪水等の災害にあつていない。全国では毎年どこかで水害が起きている。私に水害にあつていないのは、三斗山の方たちがかつての土地から移転されて、そのあと河川改修が行われたことからです。本当



◆三斗山島跡の碑

にありがたいことです。奉仕活動というものでもないが、体が空いているから行っているだけです。三斗山の人達に感謝しています。」と言っておられました。▼何もしない自分が恥ずかしいと思いつつ、奉仕者にお礼をいながら帰宅の途に、そして樋管を管理して川島を洪水から守っている人にも感謝したいと思います。一日でも早い川島大橋の完成を祈るところです。

【三斗山島の跡】大正12年からの木曾川新河道形成工事により、ここに集落を作っていた28戸が河床となり、全戸が現在地に移転した。

# コロナ禍でも できる事業は？

## ～コミュニティー会議～



◆ふれあい演劇(令和元年度)



◆小網町三代交流(令和2年度)



◆ルディックウォーキング講習(令和元年度)

前述のように提案された事業の中から一番人気のあったのが①の事業で、これについて6つの視点からの具体的な展開を各人が家に持ち帰って考えてみることにしました。

- ⑤ ドローンと遊ぶ  
子供と大人が触れ合いながら最新の技術を学ぶ。
- ④ スマートフォンを活用しよう  
ラインなどを使って案内連絡の効率を図る。
- ③ ワクワク世代交流会  
花壇、健康づくり等を行った後、食事会で交流。
- ② 障がい者との対話、介助体験で高齢者と触れ合う。

12月18日、川島ライフデザインセンターで、地区社協役員が参加して「コミュニティー会議」を開催しました。  
2年前、本会が地区社協のめざす姿として「若い人も高齢者もみんなが交流し、心身健康で幸せに暮らせる町を目指す」を標語として掲げました。しかし、まもなくして、新型コロナウイルス感染症により社会情勢が大きく変化、計画していた事業の縮小、中止等を余儀なくされました。このため、地区活動を見直す機会として今回開催したものです。会長挨拶のあと「市地域福祉計画、活動計画」の概要説明を行い、次に二人ペアになってコロナ禍でも実現できそうな事業について話し合いました。



◆古希の集い(平成30年度)

(概要)

### 【地域福祉・活動計画】

令和2年度から5年間の計画で基本方針、事業の展開など6章に分けて計画されています。

### 【ペアでの話し合い】

市社協が準備した「コロナ禍における地域福祉活動事例集」を参考に実施できそうな事業をペアで相談し、趣旨と内容を述べ合いました。

### (提案された事業名)

- ① 川島地区社協いきいきお楽しみ事業  
有名人等の福祉に関する講演、講話などのイベントを実施する。
- ② 心の支えを学ぶ

## 皆さんもワクワクする事業を考えて

6つの視点とは「集うこと、学ぶこと、支え合うこと、知らせること、募ること、応援すること」の6つです。  
みなさんも左記の六角形図にしたがって一度ワクワクする事業を考えてみませんか？

### 集うこと

当日、ワクワクする目玉事業の実施、打合せや小事業など



### 学ぶこと

【例】事業に関連した事例、背景、環境づくりの学習、情報収集

### ささえあうこと

【例】移動に支障のある方の送迎や当日の高齢者等への案内

### 応援すること

【例】事業に付随した小事業・活動、団体との連携

### 募ること

【例】学ぶことの為の講師、協力していただけるボランティアや企業の募集

### 知らせること

【例】事業の周知方法



### 横断旗を設置

交通量の増加により、緑町に横断歩道ができ、本会では新しく横断旗を設置しました。道路を横断するときに活用してください。

地区社会福祉協議会とは  
「地域にある福祉課題の発見、共有、解決の仕組み作りを行う住民団体で、自治会や民生委員、各団体、ボランティア等で構成されています。  
川島地区社協は「住民同士や親子との触れ合い、一人暮らし高齢者への支援、ボランティアグループに対する助成」などの活動をし、各種団体と連携しあつて運営しています。  
また、地区社協の財源は、皆さんにご協力いただく会費です。一旦市社協に入金され、その後地区社協へ交付金、メニュー事業助成金として実施状況に応じて地区社協へ入って来ます。